

環境経営レポート

(対象期間 2023年9月～2024年8月)



作成日 2024年10月31日

株式会社 アプリス

ご挨拶

株式会社アプリスは1962年創業以来、食品パッケージにおけるリーディングカンパニーとして、独自の多層技術を活かした高機能製品を開発・提供し、着実に地歩を固めてまいりました。また、"食"の明日を切り拓くことを自らの使命と考え、その実現の為、日々弛まぬ努力を続けてまいりました。

企業活動は環境にも与える影響が大きい事を受け止め、次頁の環境方針を基に環境活動を展開し、地球環境に優しい企業として環境への配慮も企業活動の大きな役割として捉え新たな一步を歩み出しました。

以下、「環境経営レポート」としての取り組みをまとめましたので、私たちの取り組みをご高覧の上、ご指導、ご指摘をいただき次の環境活動に生かして行きたいと存じます。

株式会社 アプリス
代表取締役社長
秋元 裕滋

目次

ご挨拶	… P1
1. 環境経営方針	… P2
2. 事業活動の概要	… P3
3. エコアクション2.1推進組織図	… P5
4. 環境目標とその実績	… P8
5. 環境活動計画の取組みと評価	… P11
6. 代表者による全体評価と見直しの結果	… P14
7. 環境関連法規制の遵守	
8. 環境活動の例	… P15

1. 環境経営方針

環境経営方針

< 基本理念 >

私たちは、環境問題への取り組みが、人類共通の課題のひとつと認識し、
本業である容器製造業を通じて、人間と自然が共生できる環境の創造と
持続的発展が可能な社会造りに貢献いたします。

< 基本方針 >

環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げて取り組みます。

1. 当社の本業である、食品容器の成形・加飾から物流工程までの各領域において、技術的・経済的な事情を考慮の上、環境負荷の低減に努めます。
 - ①二酸化炭素排出量削減のため、使用電力削減・使用資材の削減・廃棄物の単純焼却の削減に努めます。
 - ②事業活動で発生する廃棄物は、発生を抑制するとともに再使用、再利用の向上に努めます。
 - ③水資源の有効利用の為、節水に努めます。
2. 環境活動の継続的改善を推進するにあたり、環境目標・環境活動計画を策定し取り組みます。
策定して目標・活動計画は定期的にあるいは必要に応じて見直し、継続的な改善に努めます。
3. 環境関連法・規制及びその他要求事項を遵守し、環境負荷の低減、環境汚染の防止に努めます。
4. 環境方針は、全ての従業員に周知するとともに、環境教育を行い社員の環境に関する意識の向上を図ります。
5. 環境管理に関する情報は、社内外に公表し、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

改定日 2020年 8月 21日

株式会社 アプリス

代表取締役社長 秋元 裕滋

2. 事業活動の概要

1. 事業者及び代表者名

株式会社 アプリス
代表取締役社長 秋元 裕滋

2. 所在地

〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1 - 1 5 - 5
三鷹高木ビル 6 階

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 秋元 裕滋
副責任者 : 製造本部長兼関東工場長
副責任者 : 九州工場長

関東工場 環境管理責任者 : 関東工場 関東総務課課長
関東工場 担当 : E A 2 1 事務局 保全課
TEL : 027-269-3831
FAX : 027-269-3834

九州工場・九州営業部 環境管理責任者 : 九州工場 製造部 技術担当課長
九州工場 担当 : E A 2 1 事務局 総務課
TEL : 0948-23-0238
FAX : 0948-29-8547

本社・関西営業部 環境管理責任者 : 東京総務課課長
本社・関西営業部 担当 : E A 2 1 事務局 総務課
TEL : 0422-60-3110
FAX : 0422-60-3115

4. 対象範囲

関東工場
群馬県前橋市五代町680-2 芳賀東部工業団地内
九州工場・九州営業部
福岡県飯塚市大字幸袋720-2
本社(営業本部・管理本部)
東京都武蔵野市中町1-15-5 三鷹高木ビル 6 階
関西営業部
大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル 4 階

5. レポートの対象期間

2023年9月度～2024年8月度の活動

6. 事業の内容

熱可塑性樹脂一般の真空・圧空成形品の製造販売
インJECTION製品の製造販売

7. 事業規模

関東工場

活動規模	単位	2022年度 (9～8月度)	2023年度 (9～8月度)
主要製品生産量	百万個	3877	3713
従業員数	人	597	643
延べ床面積	m ²	49,863	49,863

九州工場

活動規模	単位	2022年度 (9～8月度)	2023年度 (9～8月度)
主要製品生産量	百万個	1,403	1,308
従業員数	人	190	195
延べ床面積	m ²	14,310	14,310

本社・関西営業部

活動規模	単位	2022年度 (9～8月度)	2023年度 (9～8月度)
主要製品生産量	百万個		
従業員数	人	54	54
延べ床面積	m ²	622	622

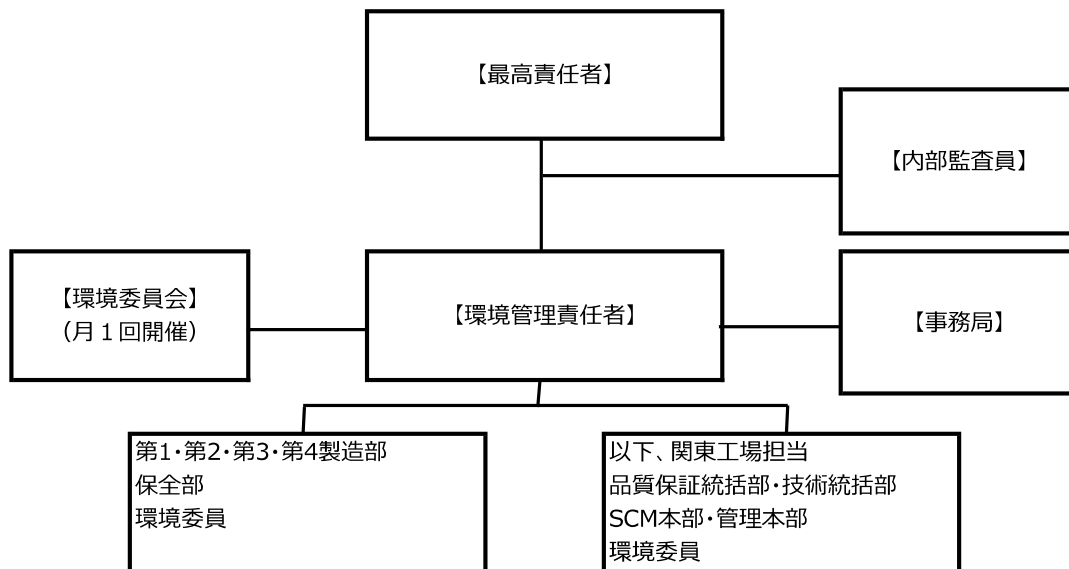
8. 全社の主な環境負荷

	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量(t-CO ₂)	28,957.1	28,760.2	28,333.4
廃棄物排出量(t)	718.0	759.4	579.7
水資源投入量(m ³)	63,303	63,199	61,367

3. エコアクション21推進組織図（関東工場）

（2014年10月7日 作成）

（2019年2月1日 変更）

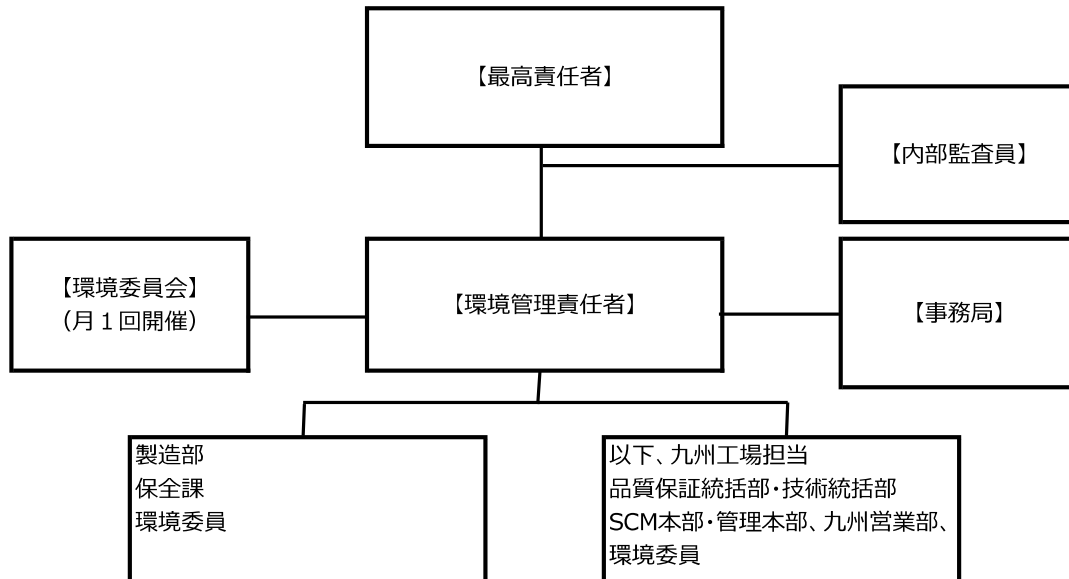


職名	役割
最高責任者	①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③環境方針を制定する。 ④エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
内部監査員	事業年度終了後、速やかに監査を実施し、最高責任者及び環境管理責任者に結果を報告する。
環境委員会 (安全衛生会議・省エネ 進捗会議と兼ねて実施 する)	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、月1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。

3. エコアクション21推進組織図（九州工場）

（2017年8月21日 作成）

（2023年5月16日 変更）

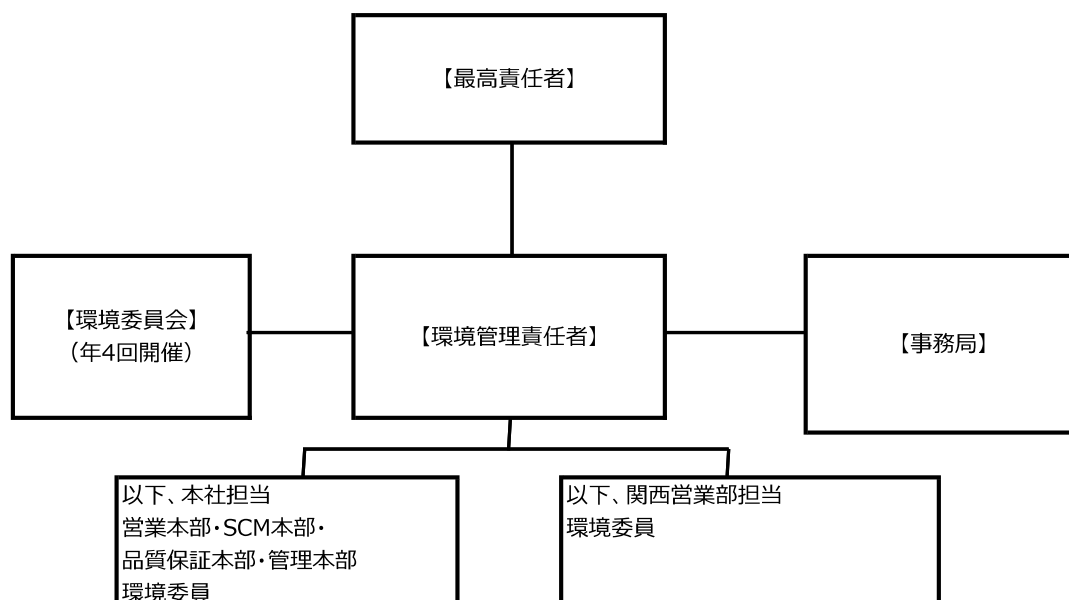


職名	役割
最高責任者	①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	①事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
内部監査員	事業年度終了後、速やかに監査を実施し、最高責任者及び環境管理責任者に結果を報告する。
環境委員会 (安全衛生委員会と兼ねて実施する)	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、月1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。

3. エコアクション21推進組織図（東京本社・関西営業部）

（2019年12月20日 作成）

（2022年5月6日 更新）



職名	役割
最高責任者	①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
環境委員会 (安全衛生会議・省エネ 進捗会議と兼ねて実施する)	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、年4回環境管理責任者が召集する。 環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。 環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。

4. 環境目標とその実績（関東工場）

関東工場に於ける2021年度(2021/8/21～2022/8/20)の環境負荷実績を把握し、
2023年度～2025年度迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	基準年	今年度		中長期目標		環境活動計画 実施事項
	2021年度	2023年度		2024年度	2025年度	
	実績	目標	実績	目標	目標	
①生産量100万個当 たりの二酸化炭素排出 量の削減(t/百万個)	5.69	2021年度 実績に対して 1.0%減 5.63	× 5.84	2021年度 実績に対して 1.5%減	2024年度 実績に対して 0.5%減	①空調温度適正化・表示 ②照明・PC電源不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④電力量の集計・分析 ⑤ガソリン等燃料の集計
②生産量100万個当 たりの廃棄物排出量の 削減 (t/百万個)	0.112	2021年度 実績に対して 1.0%減 0.111	× 0.112	2021年度 実績に対して 1.5%減	2024年度 実績に対して 0.5%減	①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物の削減・資源化 ④廃棄物排出量の集計
③生産量100万個当 たりの水資源投入量の 削減(m ³ /百万個)	11.7	2021年度 実績に対して 1.0%減 11.6	× 12.2	2021年度 実績に対して 1.5%減	2024年度 実績に対して 0.5%減	①毎月のメータの確認(漏水防止) ②節水表示(手洗い場・トイレ) ③クーリングタワーの薬剤管理
④本業に関する目標	—	①標準材料 ロス率以内 ②前年実績 より向上させ る	①材料ロス× ②ファンクシ ョン率○	①標準材料 ロス率以内 ②前年実績 より向上させ る	①標準材料 ロス率以内 ②前年実績 より向上させ る	①材料ロスの削減 ②ファンクション率の向上 ③目標達成・進捗状況の確認

※購入電力の排出係数は、0.455kg-CO₂/kwhを使用しています

(R2.1.7環境省・経済産業省公表 東京電力エナジーパートナー 調整後排出係数)

※化学物質の使用はありません

4. 環境目標とその実績（九州工場）

九州工場に於ける2021年度(2021/8/21～2022/8/20)の環境負荷実績を把握し、
2022年度～2024年度迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	基準値	今年度目標・実績		中長期目標	環境活動計画 実施事項
	2021年度	2023年度		2024年度	
	実績	目標	実績	目標	
①生産量100万個当 たりの二酸化炭素排出量 の削減(t/百万個)	4.89	2021年度実 績に対して2% 削減	× 4.99	2021年度実 績に対して3% 削減	①空調温度適正化、フィルター定期清掃 ②DM電力抑制適正化（エアコン電力抑制） ③高効率エアコンへの更新 ④電力量の集計・分析 ⑤ガソリン等燃料の集計 ⑥工場受電室トランス更新（トップランナー）
②生産量100万個当 たりの廃棄物 排出量の削減 (kg/百万個)	126	2021年度実 績に対して2% 削減	○ 120	2021年度実 績に対して3% 削減	①分別ルールの徹底 ②廃棄物排出量の集計 ③廃棄物の資源化（無償・有償引取）
③生産量100万個当 たりの水資源投入量の削 減(m³/百万個)	12.5	2021年度実 績に対して2% 削減	○ 11.9	2021年度実 績に対して3% 削減	①水道メータの日々確認（漏水早期発見） ②クーリングタワー排水の見える化 ③クーリングタワーの薬剤管理 ④クーリングタワー供給水ボールタップ定期交換
④本業に関する目標	—	①材料ロス：標 準ロス率以下 ②ファンクショ ン率：前年対比で 向上を目指す	①材料ロス： 成・印・シ（達 成） ②ファンクショ ン率：成（達 成）、印・シ（未 達）	①材料ロス：標 準ロス率以下 ②ファンクショ ン率：前年対比で 向上を目指す	①材料ロスの削減 ②ファンクション率の向上 ③目標達成・進捗状況の確認

※ 購入電力の二酸化炭素 調整後排出係数は、0.479kg-CO2/kWhを使用しています
(2020年度・九州電力)

※化学物質の使用はありません

4. 環境目標とその実績（東京本社・関西営業部）

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	2022年度	2023年度		2024年度	2025年度	環境活動計画 実施事項
	実績	目標	実績	目標	目標	
①年間あたり二酸化炭素排出量の削減(t)	108.9	前年比で1%削減	× 108.8	前年比で1%削減	前年比で1%削減	①空調温度適正化・表示 ②照明・PC電源不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④電力量の集計・分析 ⑤ガソリン等燃料の集計
②年間あたり産業廃棄物排出量の削減(kg)	6,792	前年比で1%削減	○ 6,053	前年比で1%削減	前年比で1%削減	①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物の削減・資源化 ④廃棄物排出量の集計
③年間あたり水資源投入量の削減(m)	443	前年比で1%削減	× 452	前年比で1%削減	前年比で1%削減	①毎月の使用量の確認 ②節水啓蒙活動
④グリーン購入の推進	-	購入品リストによるグリーン購入の推進	-	購入品リストによるグリーン購入の推進	購入品リストによるグリーン購入の推進	①購入品の調査 ②グリーン購入品の選定 ③グリーン購入品の導入
⑤本業に関する目標	-	業務効率化とその支援	-	業務効率化とその支援 新素材の検討	業務効率化とその支援 新素材の検討	①業務効率化とその支援 ②目標達成状況・進捗状況の確認

※ 購入電力の排出係数は、基準年に合わせ以下の値を使用しています

本社：0.455kg-CO₂（R2年用・東京電力EP調整後排出係数）

関西：0.334kg-CO₂（R2年用・関西電力調整後排出係数）

5. 環境活動計画の取組みと評価（関東工場）

* 2023年度(2023年9月～2024年8月)の活動の取組みと評価をしております。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 2021年度に対して1.0%減 目標の達成状況：2.6%増→×	・電力及びエア使用量の見える化の推進 ・第二工場,第四工場印刷ラインUV装置改善 ・第五工場エアコンプレッサー台数制御化等の省エネ対策 ・第四工場から第三工場への印刷ラインの移設や、第四工場への成形ラインの増設等の大規模な改修工事の影響や猛暑により、電力の原単位が悪化した為目標を達成できなかった
	次年度への取組内容 ・本業部分の稼働効率の向上や待機電力の更なる削減 ・自家消費型太陽光発電設備や第一工場エアコンプレッサー台数制御化等省エネ設備の積極的投資
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 2021年度に対して1.0%減 目標の達成状況：0.0%減→△	・廃棄物の分別・廃棄方法精査により資源化の推進 ・成形材材料ロスの削減改善 ・会議資料のペーパーレス化 ・目標は達成できなかったが、第一工場リサイクル設備の安定稼働や第二工場リサイクル設備の増強等により、改修工事による原単位の悪化を最小限に抑えることが出来た
	次年度への取組内容 ・生産稼働の安定化を推進 ・第二工場リサイクル装置能力アップ ・第三工場,第四工場リサイクル設備の本格稼働
3. 水資源投入量の削減 『目標』 2021年度に対して1.0%減 目標の達成状況：4.3%増→×	・工場別水道水使用量の見える化の推進 ・冷却水薬剤濃度制御により配管内洗浄水の節水 - 第三工場冷却水配管内スケール詰まりトラブルや第二工場リサイクル増強などの影響で目標を達成できなかった
	次年度への取組内容 ・引き続き生産効率アップと節水活動を進める ・冷却塔水道水使用量の見える化の推進 ・第二成形温調機冷却水削減対策
4. 本業に関する目標 『目標』 材料ロスの削減とファンクション率の向上 目標の達成状況：△	第四工場・第三工場の大規模改修工事等の影響で、材料ロスは目標未達だったが、安定稼働できた生産設備が比較的多かった為、ファンクション率は目標を達成できた
	次年度への取組内容 ・引き続き生産設備を安定稼働させて生産効率を上げることにより、材料ロスの削減、及びファンクション率の向上を図る

5. 環境活動計画の取組みと評価（九州工場）

* 2023年度(2023年9月～2024年8月)の活動の取組みと評価をしております。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 2021年度に対し、2%削減 目標達成状況：2.0%増加 ×	・エアコン温度の適正化は各部署で定着 ・工場受電室トランスをトッランナートランスに更新 ・高効率エアコンへの更新（省エネ補助金活用） ・コンプレッサー省エネ診断（来期改善実施） 基準年対比で生産量が△8%減少。電力消費の少なく生産量の多いアイテムが減少し、生産効率ダウン。
	次年次への取組内容 D M電力抑制装置活用（継続）、エアコンフロンガス流体攪拌装置導入、高効率エアコンへの設備更新（事務棟）、圧縮エア輸送効率向上
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 2021年度に対し、2%削減 目標達成状況：5.1%削減 ○	・ストレッチフィルム無償引取（再資源化） ・廃プラスチックパレット有償引取（再資源化） 上記により廃棄物排出量削減実施。廃棄物の分別により、年々処理量削減できている
	次年次への取組内容 ・本業の良品率アップ ・廃棄物分別化による資源化推進
3. 水資源投入量の削減 『目標』 2021年度に対し、2%削減 目標達成状況：5.0%削減 ○	・水道メーターチェックによる漏水の早期発見 ・クーリングタワー補給水、排水日常点検 日常点検異より漏水箇所、クーリングタワー設備異常を早期発見できている
	次年次への取組内容 ・水道メーターチェックによる漏水の早期発見（継続） ・クーリングタワー補給水、排水日常点検（継続）
4. 本業に関する目標 『目標』 材料ロスの削減とファンクション率の向上 目標の達成状況：△	・成形、印刷、シートともに一定の実績を出せる事が出来たが、年度数値目標に対しては未達の部分あり。 各課依存課題件に対する改善を進め、生産性向上に向けた活動を活性化させていき、従業員教育にも繋げていく。
	次年次への取組内容 ・依存性課題解決を深め、材料ロス削減、稼働効率改善活動継続 ・人材育成活性化（監督者候補教育）

5. 環境活動計画の取組みと評価（東京本社・関西営業部）

* 2023年度(2023年9月～2024年8月)の活動の取組みと評価をしています。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 2022年度に対し、1%削減 目標の達成状況：0.1%削減 △	・エアコン温度の適正化・表示 ・電力量の月次グラフ化 エアコンのこまめなON・OFFや使用していない部屋の換気方法の変更等の適正化を実施。結果としては前年とほぼ同等となった。
	次年次への取組内容
	・エアコン設定温度管理 ・換気・空調の効率化
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 2022年度に対し、1%削減 目標の達成状況：10.9%削減 ○	・廃棄物置場の分別ルール徹底 ・廃棄物排出量の集計 定期的な整理・整頓活動を継続。担当を付けサンプル管理の効率化を図ったことにより不要な廃棄を削減することができた。
	次年次への取組内容
	・廃棄物削減についての啓蒙活動 ・サンプル管理の効率化
3. 水資源投入量の削減 『目標』 2022年度に対し、1%削減 目標の達成状況：2.0%増加 ×	・月次使用料の確認・グラフ化 ・節水啓蒙活動 感染症対策のため節水については引き続き注意喚起程度の活動。使用量は前年比で微増となった。
	次年次への取組内容
	・節水啓蒙活動
4. グリーン購入の推進	・購入品の調査/グリーン購入品の導入 ・消耗品仕入れシステムを他部門にも展開、比較検討する対象範囲を拡大した。
	次年次への取組内容
	・引き続き購入品の選定・導入
5. 本業に関する目標 業務効率化と支援	・会議・打合せのWEB化 ・環境負荷の少ない製品の研究開発と提案
	次年次への取組内容
	・労働環境構築と省エネ策の両立を検討 ・新素材の検討

6. 代表者による全体評価と見直しの結果

基本方針の取組結果および全体評価については以下の通りです。

・二酸化炭素排出量削減

商品値上げや全国的な猛暑による一部商品の売れ行き不振の影響により、生産量の減少や生産効率の低下を余儀なくされた事で、全ての拠点で削減目標に満たない結果となりました。他にも関東工場での新規設備増設による機械の稼働停止といった影響もありましたが、次期は生産負荷も標準化され、また設備改善も計画されており、生産効率の改善とそれに伴う生産量に対する二酸化炭素の排出量削減効果も期待ができる見通しとなっています。

・廃棄物排出量削減

関東工場では排出量がわずかに増加したものの、これは新規設備立ち上げのための一時的なもので、他の部分では廃棄物の分別やリサイクルの安定稼働により廃棄物削減に繋がる効果が見られました。九州工場ではフィルムやパレットの無償・有償引取りによる資源化が進められ、安定して廃棄物の削減に繋がられています。本社でも廃棄物の分別化やサンプル管理の効率化を図ることで削減目標を達成しました。

・水資源投入量削減

関東工場では特定設備のトラブルにより使用量増加となりましたが、既に対策済みであり次期より改善される見通しです。九州工場では漏水等に対しても日常点検による早期発見が功を奏し、結果として使用量の削減に繋がられています。

総合的には今年度も取り巻く環境は大変厳しい状況でありましたが、そのような状況下であっても改善の量と質を落とさず多くの改善活動を確実かつ継続的に進めることができました。次期も本業を通して真に働きやすい安全安心なもののづくり、環境づくりに向けた改善活動を更に活性化させて全従業員が環境負荷低減に寄与できるように邁進して行く所存です。

7. 環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	対象	届出報告義務許可・記録等	遵守状況
騒音規制法	コソプレーサー等	設置届・環境計量証明	○
振動規制法	コソプレーサー等	設置届・環境計量証明	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品	各種点検表、チェックシート等	○
工場立地法	緑地面積等	建築確認申請書等	○
消防法	消防用設備等	防火管理者の選任・消防点検等	○
群馬県地球温暖化防止条例	関東工場	排出削減計画・報告書等	○
群馬県の生活環境を保全する条例	コソプレーサー等	設置届	○
福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例	クーリングタワー	設置届	○
プラスチック資源循環法	関東・九州工場	排出抑制と再資源化	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	マニフェスト・業者との契約書等	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律	関東・九州工場	定期報告・中長期計画書	○

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規遵守の確認をし、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局から違反等の指摘は過去5年間ありません。

環境活動の例

■ 粉砕機、ペレタイザーを増設、廃プラスチックのリサイクル促進（廃棄物の削減・資源化）

端材のリペレット



不良カップの粉砕



■ 太陽光発電設備の増設

関東工場 設備増設（450kw→800kw）



九州工場（955kw）



関東工場増設（第四工場 200kw）



関東工場増設（第五工場 150kw）



- 構内、駐車場の巡回清掃活動（安全衛生環境会議で月例報告）
- 使用電力量の月別計測と分析
- 新入社員教育（4月）
- 「e c o 検定（環境社会検定試験）」受検支援・・・累計合格者 77名（2024年8月現在）
- エコアクション21認証取得（2016年～）
- 「株式会社アールプラスジャパン」への資本参加（2020年～）
- 「CLOMA」会員（2021年～）
- 環境配慮容器の開発
 - ・植物由来のバイオマスプラスチック使用
 - ・バイオマスマーク取得
 - ・プラスチックと紙器の複合素材
 - ・バイオマスインクの使用 など
- 紙素材容器の製造